口腔扁平上皮癌の悪性化における転写因子NF-Bの役割

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 能崎, 晋一, Nozaki, Shinichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061164

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

口腔扁平上皮癌の悪性化における転写因子NF-Bの役割

Research Project

All

Project/Area Number	14771126
Research Category	Grant-in-Aid for Young Scientists (B)
Allocation Type	Single-year Grants
Research Field	Surgical dentistry
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	**能崎 晋一** 金沢大学, 医学部附属病院, 助手 (10283110)
Project Period (FY)	**2002 – 2003**
Project Status	Completed (Fiscal Year 2003)
Budget Amount *help	**¥3,400,000 (Direct Cost: ¥3,400,000)** Fiscal Year 2003: ¥1,300,000 (Direct Cost: ¥1,300,000) Fiscal Year 2002: ¥2,100,000 (Direct Cost: ¥2,100,000)
Keywords	口腔扁平上皮癌 / 転写因子 / NF-κB / がん浸潤様式 / 治療標的 / デコイ / NF-κB活性化阻害剤 / 口腔扁平上癌 / 細胞外基質分解酵素 / 線維芽細胞

Research Abstract

口腔扁平上皮癌においても,び漫性に局所浸潤した腫瘍制御の困難さが指摘され,臨床病理学的にもがん浸潤様式が転移形成率や生存率に強く影響することが明らかにされている.また,口腔扁平上皮癌の浸潤・転移の分子機構も検討され,様々な悪性形質との関連性が報告され,それらの多くは転写因子NF-κBに制御されている.しかし,がんの悪性化に伴い刺激を受けることなく,ある種の腫瘍においては恒常的にNF-κBの活性化を認めることも知られている.そこで,口腔扁平上皮癌の浸潤様式と転写因子NF-κBの恒常的な異常活性化に関連性があると考えられた.
平成14年度は,口腔扁平上皮癌における間質細胞である線維芽細胞との相互作用で,転写因子NF-κBの恒常的な活性化が起こり,がんの進展に強く働くものと考えられたとの実績を報告した.本年度は,NF-κBは口腔扁平上皮癌の治療標的として評価できるか否かを検討した.
NF-κBを標的とした治療はがんに対するアポトーシス誘導ばかりでなく,腎移植・慢性関節リウマチ・糖尿病網膜症に対する抗炎症作用にもおよんでいる.また,国内においても血管拡張術後およびステント後再狭窄に対するNF-κBデコイの臨床応用が開始されようとしている.われわれも,NF-κB活性化を特異的に抑制することで抗がん剤の耐性を阻止できると考えている.その不活性化に対する候補として,NF-κBデコイやハーブ由来成分のparthenolideが考えられる.しかし,今回の検討にてNF-κBデコイの効果は認められなかったことから,ベクターの使用やdelivery systemの開発に課題が残り,同時に,様々なNF-κB活性化阻害薬剤が報告されている中,より安全で効果の高い補助療法が望まれた.これらの問題を解決することが今度の研究課題と考えられる。

Report (2 results)

2003 Annual Research Report

2002 Annual Research Report

Research Products (7 results)

All Other

All Publications

[Publications] Nozaki, S., et al.: "Inhibition of GADD153/CHOP expression by NE-κB in breast cancer."Era of Hope. 2002. 4-19 (2002)

[Publications] 能崎 晋一: "口腔扁平上皮癌の悪性化における転写因子NF-κBの役割"日本口腔科学会雑誌. 51(6). 399-400 (2002)

[Publications] 能崎 晋一: "口腔扁平上皮癌の予後因子としての転写因子NF-κB"日本口腔外科学会雑誌. 48(13). 688-689 (2002)

[Publications] Nozaki, S., et al.: "Activity of biphenyl matrix metalloproteinase inhibitor BAY 12-9566 in a human breast cancer orthotopic model."Clin Exp Metastasis. 20(5). 407-412 (2003)

[Publications] Nozaki, S., et al.: "Inhibition of breast cancer regrowth and pulmonary metastasis in nude mice by anti-gastric ulcer agent, irsogladine."Breast Cancer Res Treat. 83(3). 195-199 (2004)

[Publications] 能崎 晋一: "口腔扁平上皮癌の悪性化における転写因子NF-κBの役割"日本口腔科学会雑誌. 51(印刷中). (2002)

[Publications] 能崎 晋一: "口腔扁平上皮癌の予後因子としての転写因子NF-κB"日本口腔外科学会雑誌. 48(印刷中). (2002)

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-14771126/

Published: 2002-03-31 Modified: 2016-04-21